

4 わたしたちにできることってなんだろう

(5) 地球温暖化による影響を考え、行動するために

イ わたしたちや今生きている生きものを守るため、今から行動を！

地球温暖化による影響は、生きものに絶滅のおそれが生じることだけではなく、病気の原因となる生物を運び生きものや、今まですんでいた生きものすみかをばたしてしまふ生きものが増える可能性があります。

デング熱やマラリアなどの感染症は病気の原因となる生物をもつ蚊に刺されることによって発症し、熱帯地域を中心に流行していますが、地球温暖化が進むと、蚊がすむことができる場所が北上するなど温帯地域の日本でも流行する可能性が高くなります。

また、地球温暖化が進むと、暑い地域を好む外来生物にとってすみやすい環境になるため、今まですんでいた生きものからすみかをうばい、広い地域にすみついてしまう可能性があります。

調べてみよう

外来生物の中でも、特に人や他の生きもの、農林水産業などに影響を与える生きものを「侵略的外来種」といいます。どのような侵略的外来種が近(きん)づいてきているか調べてみよう。

2100年は40℃を超える日があるとされているのに、病気の原因となる生物をもつ蚊に刺されないように長そで・長ズボンを着ないといけなくなると、暑くてたまらないね。そうならないように、地球にやさしい行動をとって地球温暖化が進まないようにしなうね。



24

4 わたしたちにできることってなんだろう

(5) 地球温暖化による影響を考え、行動するために
イ わたしたちや今生きている生きものを守るため、今から行動を！

○地球温暖化によってもたらされる脅威

●感染症媒介蚊の生息域拡大

ヒトスジシマカは、蚊媒介性ウイルス感染症の媒介生物として、最も重要とされており、デング熱やチクングニア熱を媒介します。ヒトスジシマカの分布域は、年平均気温11℃以上の地域とはほぼ一致することが知られています。

現在、ヒトスジシマカの分布域の北限は東北地方北部であり、この北限が1950年以降、徐々に北へと広がっていることが明らかになっており、2100年には北海道東部及び標高高地を除き、広く日本で生息が可能になる可能性があります。このため、蚊が媒介する感染症のリスクは高まります。

ヒトスジシマカ以外にも日本脳炎ウイルスを媒介するコガタアカイエカ、デング熱を媒介するネッタイシマカなどの分布拡大や生息密度の増大が予測されています。

●竹林の雑木林への侵入拡大

放棄竹林は現在では主に西日本で問題となっていますが、気候変動が進むと、東日本や北日本でも竹林が定着し、地域の生態系・生物多様性や里山管理に悪影響を及ぼす可能性があります。

現在は、東日本でモウソウチクとマダケの生育に適した土地の割合は35%であるのに対し、2℃上昇で51～54%、4℃上昇では77～83%まで増加し、北限は最大500km進んで稚内に到達すると予測されています。

●農業に影響を与える農業昆虫の分布域拡大

ミナミアオカメムシは、イネ、ムギ、ダイズなどを寄主とする害虫で、1960年代の分布域は西南暖地の太平洋岸に限られていました。しかし、近年西日本から関東の一部に

まで分布域が拡大しています。生息域は1月の平均気温が5℃以上の地域とされており、気温上昇によってその北限が北上しているとの報告があります。

●侵略的外来種

外来種とは、もともとその地域にいなかったのに、人間の活動によって他の地域から入ってきた生物のことを指します。「外来種」という言葉を見ると、海外から日本に持ち込まれた生物(国外由来の外来種)のことを表すと思われるがちです。しかし、「在来種(本来の分布域に生息・生育する生物)」でも、たとえばカブトムシのように、本来は本州以南にしか生息していない生物が北海道に入ってきた、というように日本国内のある地域から、もともといなかった地域に持ち込まれた場合には、「外来種」となり、もともとからその地域にいる生物に影響を与える場合があります。このような「外来種」のことを「国内由来の外来種」と呼んでいます。

また、外来種の中で、地域の自然環境に大きな影響を与え、生物多様性を脅かすおそれのあるものを、特に「侵略的外来種」といいます。

「侵略的」というと、何か恐ろしい・悪い生き物なのかと思われがちですが、本来の生息地ではごく普通の生き物として生活していたものですので、その生き物自体が恐ろしいとか悪いというわけではありません。たまたま、持ち込まれた場所の条件が、大きな影響を引き起こす要因を持っていたに過ぎません。

例えば、日本ではごく普通にどこにでもいるコイという魚や土手などに生えているクズという植物でも、本来生息・生育していなかったアメリカでは、「侵略的」な外来種だといわれています。また、IUCN(国際自然保護連合)が選定・公表した、世界的にみて特に侵略的な外来生物100種類のリストに、日本に生息しているワカメやイタドリ、ヌマコダキガイが選定されています。

◆外来種の問題点

<生態系への影響>

- ・在来種を食べる。
- ・在来種の生息・生育環境を奪ってしまったり、餌を奪い合ったりする。
- ・近縁の在来種と交雑して雑種をつくる。

<人の生命・身体への影響>

- ・毒を持っていたり、人を噛んだり、刺したりする危険がある。

<農林水産業への影響>

- ・農林水産物を食べる。
- ・畑を踏み荒らす。

◆外来種被害予防三原則

- ① 入れない
- ② 捨てない
- ③ 拡げない

◆福岡県侵略的外来種リスト2018

人体被害の有無、産業への被害、在来種との交雑などの評価基準に基づき、県内に定着している外来種(630種)のうち275種、及び、県内に未定着であるが、今後侵入・定着し被害を及ぼす可能性が高いと考えられる外来種29種、の合計304種を侵略的外来種として選定しています。

<http://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/sinryakugairai.html>